

新型コロナウイルス感染症の感染拡大直後における 子どもの遊びや学びに関わるステークホルダーの意識

Awareness of children's stakeholders immediately after the spread of
COVID-19 infection

長野 康平

NAGANO Kohei

Abstract

Immediately after the spread of COVID-19 infection, we launched a project to deliver play and learning using the "Facebook page", and the actual situation of activities and awareness of the stakeholders who participated in the project immediately after the spread of COVID-19 infection. The purpose of this study was to grasp and find out the common items.

As a result, what I was most worried about immediately after the spread of COVID-19 infection was "mental and physical disorders due to inability to go out", "diluted human relationships", and "severeness due to illness to COVID-19". It was found as a common item. 82.8% of the subjects were implementing the efforts even immediately after the spread of COVID-19 infection. As for the content of the efforts, many videos related to their own work, the Internet, SNS, etc. were used to disseminate information. In addition to that, the efforts that are still being implemented (October 2021), such as disinfecting fingers and giving words to parents, were being implemented.

I 緒言

2020年3月11日にパンデミックの状態にあると表明された新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、2021年10月28日15時現在、世界各国・地域に拡がり、感染者数は244,998,066例、死亡者数は4,971,580例と報告されており、国内での感染者は1,717,709例、死亡者は18,228例とまさにパンデミックな状態である（厚生労働省, online）。COVID-19の感染拡大に伴い、学校教育現場でも様々な対応を迫られた。2020年2月27日に首相より「全国すべての小学校、中学校、高等学校、特別支援学校について3月2日から春休みまで臨時休業を行うよう要請する」とした臨時休業要請が出され（首相官邸, online）、2月28日に文部科学省は小学校等に対し、3月2日から春季休業の開始日までの一斉臨時休業を要請した（文部科学省, online）。ところが、2020年4月7日に7都道府県、4月16日には全都道

府県に緊急事態宣言が発令（5月25日に全面解除）されたこともあり、休業期間は延長し、小学校等の教育活動の再開は6月1日頃であった（文部科学省, online）。このような状況の中、学校再開後の教育活動の充実に向けて、令和2年度の学校再開後の教育活動再開に向けての留意事項を整理した「学校再開ガイドライン」が3月24日に作成された（文部科学省, online）。まず、学校教育現場では、密閉、密集、密接の三密（厚生労働省, 2020a）を避けた教育活動を実施する必要がある。また、学年ごとに示されている学習指導要領の学習内容が次年度に持ち越さることや、感染症対策を講じてもなお、感染の可能性が高い学習活動については、指導順序の変更が余儀なくされた。このことから身体的接触を伴い、子どもが密接しやすい体育科・保健体育科の実技授業では、特に通常通りの授業を行うことへの困難さが指摘されている（金沢ほか, 2021）。幼児教育・保育施設においても、小学校以降同様にCOVID-19の感染拡大直後には、これまでに経験したことのない事態に対応するために知恵を振り絞り、オンラインシステムを導入した保育など、まさに試行錯誤しながらの保育が展開されていた。このようにCOVID-19の感染拡大は、教育・保育関係の分野に多大かつ多様な影響をもたらした。

COVID-19のような緊急事態時の過去の例からも、教育・保育関係の分野の苦悩は何える。例えば2011年3月11日の東日本大震災の際には、地震および津波による直接的な被害に加え、福島第一原子力発電所事故の影響により、屋外での活動が制限された地域における教育・保育に関する工夫が報告されている（菊池ほか, 2014；関口, 2017）。ここでは、これまでに経験のない、屋内でも体を動かすことができるようにする工夫などが示されている。COVID-19の感染拡大下においても、教師や保育士の負担を少しでも緩和するために、2020年5月に「新型コロナウイルス感染症への対応のための幼稚園等の取組事例集（文部科学省, online）」を作成するなど、行政でも各種資料を作成するなどの取組を実施している。一方で、このような事例等をまとめたものは、その発行までに時間がかかることが課題である。取組事例をまとめている間にも、子どもを取り巻く状況は刻一刻と変化し、問題は次から次へと発生してくる。このような緊急事態の際には、悩みや不安を解消する方途としてインターネットやSNS等を用いた情報収集が予想される。近年では、保健、健康科学の分野でソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）の投稿内容を分析する研究例が増えており、健康関連の分野でその報告が多い（Dol et al., 2019）。この背景には健康関連の関心事をSNS上に投稿して、悩みや不安を共有・解決するなどの行動があるものと考えられる。COVID-19に関するSNSの投稿を分析した研究としては、COVID-19の感染拡大に伴う不安やストレスとの実態をTwitterの投稿内容を分析した例がみられる（四方田, 2020）。

上記のように、近年はSNS等を通じ情報提供・収集、悩みや不安の解決が、教育・保育を支える方途となっている。そして、現在では子どもに関わる職業は、教育・保育業界のみならず、企業や専門的な指導者など、実に多岐にわたる。COVID-19の感染拡大下のような緊急事態時には、子どもの遊びや学びに関わる多様な職種の人たち（以下、ステークホルダー）と関わり合いながら、直面する課題を解決していくことが必要であると考えられる。そこで本研究では、「Facebook ページ」^{注)}を活用して、COVID-19の感染拡大下における遊びや学びを届けるプロジェクトを立ち上げ、そこに賛同・協力してくれる多職種から成るステークホルダーのCOVID-19の感染拡大直後における子どもに対する活動や意識の実態を捉え、その共通項を見出すことを目的とする。

II 方法

1. 対象および手続き

本研究では、子どもの遊びや学びに係る多くの職種の COVID-19 の感染拡大下の子どもに対する不安や意識の共通項を見出すことに着目したため、体育や運動などある特定の分野に関する情報の集約ではなく、子どもの遊びや学びに係る職種の者を対象として想定した。対象者のサンプリングには、本研究に先立ち Facebook で立ち上げたページ「あそびたすきプロジェクト（以下、本PJ）」に参画したメンバーのうち、29名から回答を得た。そのため本研究の対象者は、オンラインへのアクセスが容易、かつ子どもの遊びや学びに関する最新の情報を常に入手したいと思っている人間と想定される。なお、本研究のような比較的少数のサンプルを意図的に選択することは、「合目的的サンプリング（purposeful sampling）」と呼ばれる（Patton, 1980）。

本PJは2020年4月21日に立ち上がり、コンセプトは、「自宅で過ごしている人々に、あそびやまなびを映像を通して届ける」ことであり、本PJに賛同・協力したステークホルダーがプロジェクト名の“たすき”のごとく、動画をリレー形式でつないでいくものであり、2020年6月までに37名のステークホルダーが動画を配信した。ステークホルダーの職種は多岐にわたり、小学校教諭、幼稚園教諭、保育士、オリンピック、大学教員、スポーツインストラクター、体操のお兄さん、学童保育指導員、企業、似顔絵師などであった。

調査は、無料アンケートツールである Google Forms を用いて、2020年4月22日から5月8日に実施した。なお研究への同意は、Google Forms のトップ画面上に、調査の趣旨と内容、参加決定の自由、プライバシー等の保護についての説明を行い、参加の同意が得られた者のみ、回答するように分岐のページを設定した。

2. 調査項目

調査項目は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大下における状況、種々の職業が回答することを考慮し、①子どもへの影響の心配の度合い（5段階のリッカートスケール：とても心配・やや心配・どちらでもない・あまり心配ではない・まったく心配でない）、②子どもへの影響で最も心配していること（自由記述）、③新たな子どもへの取組の実施状況（有無）、④新たな子どもへの取組の実施内容（自由記述）、⑤今、子どもにしてもらいたい活動（自由記述）について尋ねた。

3. 統計解析

本研究では、COVID-19 の感染拡大下におけるステークホルダーの子どもに対する意識の共通項を見出すことを目的としているため、株式会社ユーザーローカルの提供する「AIテキストマイニング」を用いて、自由記述形式の回答を分析し、回答を要約した。「AIテキストマイニング」は、大量の文章データをクラウド上で定量的・定性的に分析・可視化するツールである。

III 結果

子どもへの影響の心配の度合いについては、「新型コロナウイルス感染症による状況のなか、子ども

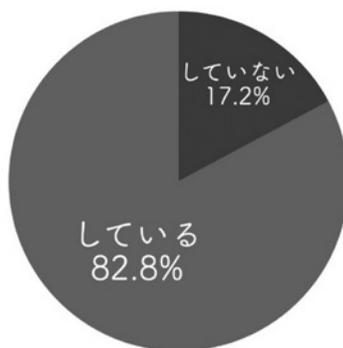


図3 新たな子どもへの取組の実施状況

新たな子どもへの取組の実施内容については、「子どもに対するどのような取組をしていますか?」の問いに対して、自由記述で25件の回答が得られた(表1)。

表1 新たな子どもへの取組の実施内容

ウイルスもそうですが、子どもたちの自由がなくなることと、その子どもたちへの目線です。
コロナウイルスが子供に感染し園内でクラスターなどが起きないかが心配
コロナにより思う存分遊べない事。
ストレス、コミュニケーション不足
ストレスがたまっていないか
運動をしないことによる無意識な体や心の不調
運動機会の減少
運動不足・コミュニケーション不足
園内感染
家庭で過ごす時間が長くなり親子の関わりが増えるはずだが、うまくこの貴重な「stay home」の時間を活かしきれない家庭も多いのではないかと。もったいない。
外出自粛による抑うつ傾向
外出自粛に伴うストレス・感染による重症化の恐れ
学習と体力
学習の遅れ
休校中、運動量や様々な身体の動きが通常時に比べて減ることで、気づかぬうちに心身ともにストレスを抱えてしまっていること。
健康被害もそうですが、学校生活を取り戻すことへの不安があります。
自由に遊ぶ機会が極端に少なくなった
集団で運動できない、部活ができないことで、精神的にストレスが溜まり、不安な気持ちになるため、心に悪影響
今回、以前関わりがあった先生にTELしました。お話のなかで動画について動画だけで完結してほしくはないなあ～(絵本の読み聞かせ)と話していました。動画を気軽に何度もみることが利点な反面、満足して実物にまで手が届かなければ意味がない。絵本好きな方であれば面白いから手にいれてみようとなりますが、サラッとみて内容がわかったから別にいらないや～ではなく、そこから、広がってほしいなと思います。つまり、これをきっかけとし、(不謹慎ですが)絵本に魅力を感じてほしいと願っています。コロナの次に恐れなければならないのか、こどもたちの『肥満』『ゲーム依存症』『動画中毒』です。日本全体がそうなります。そんな子が大人になって、子どもを育てる。それを防ぐためにも、今が大事であり、終息後の私たち一人一人の大人、教育者の意識、動きが重要になります。このような、喫緊な状況ですが、遊びや絵本の紹介提供を、大人・子どもに楽しんでもらい過ぎてもらうのは、もちろんのこと、終息したあとに“繋がるように”を私たちブレイカー・絵本専門士が意識していかなければならないのかなと感じました。
子どもたちはこの状況の中でも強く、自分で楽しむ、学ぶ力があるが、大人の心の不安、雰囲気、街の空気感それが伝わることによって力が発揮されなくなる。また子どもは価値のある1人の人として少しずつ認識され始めていたが、今回のコロナによってまた守られる、保護しなければいけない存在に戻らないか心配
心とカラダの健康状態
身体活動、学びの機会
人との触れ合い・交流をしなくなるのでは?と
人との触れ合いができない環境下による悪影響
生活習慣の乱れ
精神的な不安、孤独感
体験の損失
保護者が共働きで、子供を隔離することが出来ない。感染する確率をあげてしまっている
幼稚園児ぐらいの子どもは、マスクが慣れない(大きい、動いてしまう、暑苦しい)理由で、ばつと外してしまうケースを数件みました。

今、子どもにしてもらいたい活動については、「今、こんな状況だからこそ、子どもたちにしてもらいたい活動はありますか？」の問いに対して、自由記述で29件の回答が得られた（図4）。またこの図4は「今できる自分の好きなことをみつけてほしい」「家の生活でどんな楽しみ方があるのかを考える」「家族との生活の中での触れ合いからの学び」の3つの文章に特徴づけられた。

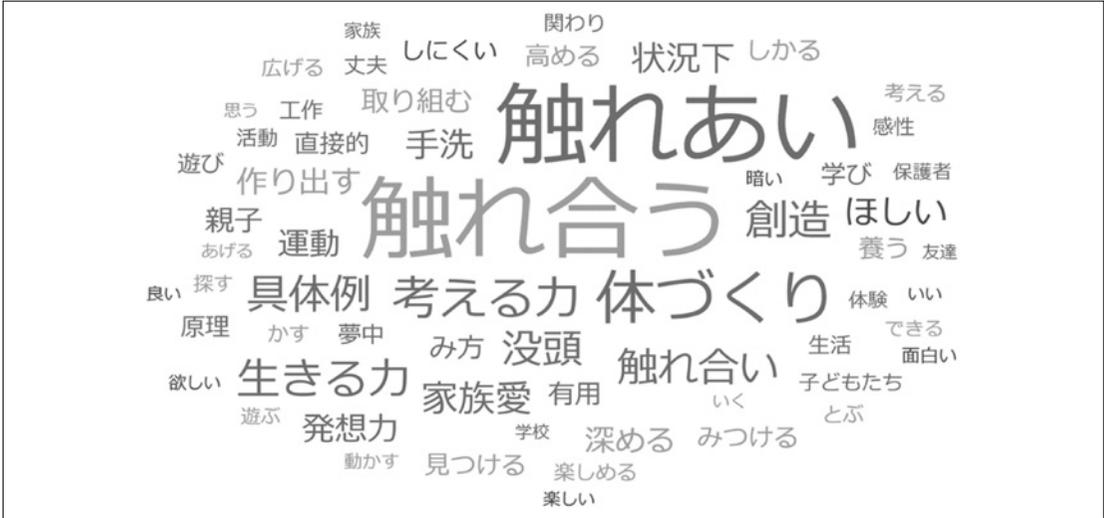


図4 今、子どもにしてもらいたい活動

IV 考察

本研究では、子どもの遊びや学びに関する多職種から成るステークホルダーの COVID-19 の感染拡大下における子どもに対する活動や意識の実態を捉え、その共通項を見出すことが目的であった。まず、多くのステークホルダーが COVID-19 の影響による子どもへの影響について、その多くが強い心配を抱いていた。その心配事の内容として最も心配していたことは、外出ができないことによる心身の不調や、人間関係の希薄化、COVID-19 への罹患による重症化が共通項として見いだされた。またこのような事態を危惧してか、実に 82.8% の対象者が COVID-19 の感染拡大直後にもかかわらず、取組を実施していた。この内容としては、自身の仕事に係る動画やインターネット、SNS 等での情報発信が多く見られた。それ以外にも手指の消毒や保護者への言葉かけなど、現在（2021 年 10 月）でも実施されている取組が実施されていた。

著者も小学校教員に協力を得て YouTube 上に 2020 年 5 月より、コロナ禍でも実施が可能な運動遊びに関する動画を投稿しているが、そのアクセス数の軌跡を概観すると、2020 年の 5・6 月の比較的情報が少ない時期に、動画へのアクセス数が集中している。その後アクセス数は停滞するが、2021 年 4 月上旬にアクセス数が再び上昇する。これは、コロナ禍への対応に加え、教員が新学期における授業の教材を探してのものと推察される。このように、コロナ禍でも実施できる内容を提供してはいたが、コロナ禍以外でも実施可能、かつ有益なコンテンツが提供できているのではないかと考えられる。長野ほか（2021）は小学校の教員へのアンケート調査から、教職歴の若い教員に対する授業の不安や悩みを解決する方途として、インターネットの活用率の高さを考慮して、web 上に実践例を紹介、専門書や雑誌、研修会などの情報を集約したプラットフォームの構築の必要性を指摘している。コロナ禍においても、

全国各地で行われている各種取組等を集約できるようなプラットフォームがあれば、アフターコロナにおいても、子どもの学びの質を担保できるような取組が可能ではないだろうか。

また今、子どもにしてもらいたい活動は、「今できる自分の好きなことをみつけてほしい」「家の生活でどんな楽しみ方があるのかを考える」「家族との生活の中での触れ合いからの学び」と COVID-19 の感染拡大下におけるネガティブな状況を悲観するのではなく、この状況を何とか乗り越える、この状況だからこそでできるような活動を実施して欲しいと、ポジティブに捉えるような回答をしていた。このような指摘に対応するように、この状況をポジティブに捉えた本PJに参加したステークホルダーは、別プロジェクトも発足させ、COVID-19 の感染拡大直後に、ソーシャルディスタンスとして示されていた「2m」の距離に着目して、「2mをあそぼうプロジェクト」を立ち上げて、2mの距離を遊びを通じて体験するような動画を発信している。著者もこの取組に着目し、コロナ禍で子どもが入館できずに困惑していた子どもの遊びに関する施設に、このプロジェクトの紹介などを実施してきた。大学教員にはこのような最新の情報が集まりやすい傾向があるので、このような情報を積極的に紹介していくことも重要な役割であると考えられる。また、この「2mをあそぼうプロジェクト」は、スポーツ庁の「Sport in Life プロジェクト」にも紹介されている。このように SNS を用いた取組は、特に情報の少ない緊急事態時に大きな恩恵が得られる。

本研究でも COVID-19 の感染拡大直後の子どもの遊びや学びのステークホルダーの意識等を把握したが、COVID-19 の感染拡大下における小学校・中学校教員の体育科・保健体育科の授業の実態や、不安や悩みを捉えた研究（金沢ほか、2021；長野ほか、2020）においても、2020年8月段階でも多くの悩みや不安を抱えながら、授業を実施している様子が報告されている。COVID-19 のような緊急事態時にはなるべく早期にそこに関わる人々のニーズを捉え、その情報を共有し、取組を実施していくことが重要であると考えられる。そして、後に同様の事態が起きた際に、より適切な行動をとれるようにするためにも、それらの情報を後世にも残せるようなシステムが重要である。

注

「Facebook ページ」とは、「Facebook」上で活用することが可能なビジネス向けのホームページのようなものであり、ビジネス情報（住所・電話番号・営業時間など）、投稿、メッセージの授受等が可能なツールである。

謝辞

本プロジェクトを立ち上げ、協力依頼をしていただいた東京女子体育短期大学の堀内亮輔氏にはこの場をお借りして、心より御礼申し上げます。また、COVID-19 の感染拡大直後の不安な時期にもかかわらず、積極的に活動され、本研究にご協力いただきました方々にも心より御礼申し上げます。

V 文献

- 1) Dol, J., Tutelman, P. R., Chambers, C. T., Barwick, M., Drake, E. K., Parker, J. A., Parker, R., Benchimol, E., George, R.B., and Witteman, H. O. (2019) Health Researchers' use of social media:

- Scoping review. Journal of Medical Internet Research, 21 (11) : e13687.
- 2) 金沢翔一・長野康平・中込和彦・中村和彦 (2021) 新型コロナウイルス感染症状況下における保健体育科実技授業の実施状況に関する調査：山梨県内の中学校を対象として. 教育実践学研究：山梨大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要, 26 : 105-113.
 - 3) 菊池信太郎・柳田邦男・渡辺久子・鶴田夏子 (2014) 郡山物語：未来を生きる世代よ！震災後子どもへのケアプロジェクト. 福村出版
 - 4) 厚生労働省 (online) 新型コロナウイルス感染症の現在の状況と厚生労働省の対応について (令和3年10月28日版) https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_21923.html, (参照日：2021年10月27日)
 - 5) 文部科学省 (online) 令和2年2月28日付け元文科初第1585号文部科学事務次官通知. https://www.mext.go.jp/content/202002228-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf, (参照日：2021年10月27日)
 - 6) 文部科学省 (online) 令和2年度における小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校等における教育活動の再開等について (通知) 3月24日. https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/index_00007.html, (参照日：2021年10月27日)
 - 7) 学校再開ガイドライン (3月24日) (online, https://www.mext.go.jp/content/20200406-mxt_kouhou01-000006156_1.pdf, (参照日：2021年10月27日)
 - 8) 文部科学省 (online) 新型コロナウイルス感染症への対応のための幼稚園等の取組事例集 https://www.mext.go.jp/content/20200512-mxt_youji-000005336_002.pdf, (参照日：2021年10月27日)
 - 9) 長野康平・篠原俊明・中村和彦 (2021) 小学校教員の体づくり運動領域における指導実態と意識：所属研究部と教職歴による検討. スポーツ教育学研究, 41 (2) : 49-66.
 - 10) 長野康平・金沢翔一・中村和彦 (2020) 山梨県内の小学校における新型コロナウイルス状況下での授業実施に関する調査研究. 日本体育科教育学会第25回学会大会 (WEB研究発表)
 - 11) Patton, M. Q. (1980) Qualitative evaluation methods. Beverly Hills, CA: Sage Publications
 - 12) 関口はつ江 (2017) 東日本大震災・放射能災害下の保育：福島の実態から保育の原点を考える. ミネルヴァ書房
 - 13) 首相官邸 (online) https://www.kantei.go.jp/jp/98_abe/actions/202002/27corona.html, (参照日：2021年10月27日)
 - 14) 四方田健二 (2020) 新型コロナウイルス感染拡大に伴う不安やストレスの実態：Twitter投稿内容の計量テキスト分析から. 体育学研究, 65 : 757-774.

〈キーワード〉

SNS, COVID-19, ウェブアンケート, テキストマイニング, ステークホルダー

長野 康平 (幼児教育科)
(受理 2021年11月1日)